

6 書道教育\_日本書道史\_住川英明\_集中講義が重複した学生が受講

No	テーマ	学修到達目標	内容	課題
第1講	日本書道史への視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道史研究の特色について、概括的に説明することができる。</li> <li>・作品の鑑賞の方法について、事例にもとづいて、具体的に説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)歴史研究の方法とは</li> <li>(2)美術史における「様式」の考え方</li> <li>(3)鑑賞の3つの方法</li> <li>(4)高村光太郎の鑑賞に学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)書道史研究の特色について、下記のキーワードを使って、まとめなさい。「仮説」「様式」「臨書」</li> <li>(2)高村光太郎の鑑賞文について、3つの鑑賞の方法を当てはめて、考察しなさい。</li> </ul>
第2講	日本金石文と中国書法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古墳時代以前の文字資料について、概括的に説明することができる。</li> <li>・飛鳥時代の文字資料について、中国書法との関わりに言及しながら、概括的に説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)漢字の伝来と万葉仮名の発生</li> <li>(2)仏教の伝来による書の発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)古墳時代から上代にかけての金石文に見られる漢字の書体と書風について、まとめなさい。</li> <li>(2)万葉仮名の発生について、当時の文字資料を例として、まとめなさい。</li> </ul>
第3講	天平の書と王羲之書法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・《日本三古碑》それぞれの書風について、概括的に説明することができる。</li> <li>・万葉仮名が広く行われるようになった状況について、正倉院文書等の当時の文字資料にもとづいて、概括的に説明することができる。</li> <li>・王羲之書法の受容の状況について、当時伝来した摸搨本等により、具体的に説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)上代の金石文字資料</li> <li>(2)仏教文化と写経の盛行</li> <li>(3)万葉仮名による日本語表記</li> <li>(4)王羲之書法の受容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)光明皇后《楽毅論》の書風について、当時における王羲之書法の受容と関連づけて、考察しなさい。</li> </ul>
第4講	三筆と中唐の書法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空海の代表的な書作品を挙げて、その書風の特徴について具</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)遣唐使や留学僧による唐文化の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)空海《風信帖》の書風について、</li> </ul>

		体的に説明することができる。	流入 (2)中唐の書における新旧の諸派 (3)「三筆」と空海書の多様性	徐浩や張従申等による中唐の書跡と関連づけて、説明しなさい。
第5講	三跡と「和様」	・三跡それぞれの代表的な書作品を挙げて、各人の書の特徴について、具体的に説明することができる。 ・平安時代中期の「和様」の書の成立とその特徴について、概括的に説明することができる。	(1)国風文化の盛行と三跡の登場 (2)小野道風と「和様」の誕生 (3)仮名文における草仮名の使用	(1)小野道風の行書作品と藤原行成の行書作品とを比較しながら、和様の成立とその特徴について、考察しなさい。
第6講	平仮名の発生とその表現	・平安時代中期の女手と「古筆」の発達について、具体的な作品例を挙げて、概括的に説明することができる。 ・《高野切》の成立とその書としての特質について、具体的に説明することができる。	(1)女手の発達 (2)様々な筆写本と「古筆」 (3)《高野切》の成立と書美の特質	(1)《高野切》の成立とその書としての特質について、下記のキーワードを使ってまとめなさい。「女手」「古今和歌集」「古筆」「寄合書き」
第7講	連綿・散らし・料紙の美	・平安時代中期から後期にかけての、女手による「古筆」の技法について、具体的な例を挙げて説明することができる。 ・料紙作成の技法と代表的な装丁形式について、具体的な例を挙げて説明することができる。	(1)紙背仮名消息と連綿 (2)散らしの技法と三色紙 (3)料紙と装丁形式	(1)連綿・散らしの技法の発生と発達について、紙背仮名消息と三色紙を例として、説明しなさい。
第8講	和様の個性化と「墨跡」	・名称に「伝」のついた古筆を例として、その名称と分類の意義について、概括的に説明することができる。 ・「流」や「様」をもって語られる、代表的な書流と秘伝書について、概括的に説明することができる。 ・「墨跡」の代表的な作例について、中国書法の影響に触れながら、具体的に説明することができる。	(1)古筆の伝称筆者と系統的分類 (2)書流の展開と秘伝書 (3)「墨跡」と中国書法	(1)いわゆる「流儀書道」の功罪について、代表的な書流と秘伝書を例に挙げて、考察しなさい。 (2)「墨跡」の代表的な作例について、中国宋時代の書の影響に触れながら、まとめなさい。
第9講	光悦の人と作品	・本阿弥光悦の書作品、工房における制作という作品制作のあり方等について、概括的に説明することができる。	(1)町衆の文化と「嵯峨本」 (2)本阿弥光悦の作品とその新しさ	(1)文化の中心的な担い手が町衆に移行したことによる、書の特質の

		・近衛信伊の大字書など、書に様々な装飾的な工夫が施されたことを作品例にもとづいて説明することができる。	(3)大字仮名と「寛永の三筆」	変化について、説明しなさい。
第10講	和様書道と唐様書道	・唐様書道において、真跡を重視する考え方と法帖を重視する考え方が存在したことを、概括的に説明することができる。	(1)和様書道と書の大衆化 (2)唐様書の流行と書論における実証主義の萌芽	(1) 真跡を重視する考え方と法帖を重視する考え方の両方の立場から、それぞれの所説をまとめなさい。
第11講	僧侶・画人・文人の書	・当時の和様書道、唐様書道のいずれの流れにも関わらず、個人的な書を書き、後にその書が高く評価されている人々の書について、具体的に説明することができる。	(1)「逸脱派」の書 (2)良寛の書と明治期以降におけるその受容	(1)良寛の書は、明治以降において画人・文人の間で高く評価されている。その理由について、評価する意見とともに考察しなさい。
第12講	幕末の三筆と六朝書道	・「幕末の三筆」の書作品について、実証主義の展開の観点から、具体的な作品例にもとづいて説明することができる。 ・「明治の三大家」の書作品について、清朝からの新資料の流入等を踏まえて説明することができる。	(1)書家としての巻菱湖と市河米庵 (2)貫名菘翁における実証主義の展開とその評価 (3)明治の書家と「六朝書道」	(1)貫名菘翁の書と学書の方法は、なぜ明治の識者から高く評価されたのか、考察しなさい。
第13講	学書理論と資料収集	・比田井天来の学書理論のあらましを「実用書と芸術書」の観点から説明することができる。 ・中村不折らによる書道資料の収集とその紹介について、出版された図書等から説明することができる。	(1)書壇の形成と競書雑誌 (2)比田井天来による学書理論の確立 (3)書道資料の収集と出版の盛行	(1)競書雑誌による学書システムの功罪について、考察しなさい。
第14講	現代の書流と文人の書	・現代書のジャンルと昭和期の主な書家の作品について、説明することができる。	(1)現代書のジャンルと主な作品 (2)高村光太郎と會津八一	(1)書芸術が、書家の書と文人の書に分離している現状を踏まえて、自己はどのような立場で制作に向き合ったらよいのだろうか。討議してみよう。

第15講	まとめ—日本書道史の方法	<p>・研究テーマとして想定できるいくつかのトピックスについて理解し、自己の興味について説明することができる。</p>	<p>(1)光明皇后《楽毅論》における書風の来源について  (2)空海の書における渡唐前後の書風の変化について  (3)良寛の書の評価と受容について</p>	<p>(1)自分が興味を持ったトピックスについて、どのように考察を進めたらよいか、討議してみよう。</p>
------	--------------	---	--	---